



小田高 11 期通信

2010 年 12 月 1 日発行
第 6 号

In the center of your heart and my heart, There is a wireless station; So long as it receives messages of beauty, Hope, cheer, courage and power From men and from the Infinite, So long are you young.

伝統について

編集者代表：
今道周雄

今年 5 月の同窓会総会に出席した方はご存じと思うが、質疑の中で「創立 110 周年記念行事を何故学校主体で行わないのか」という議論がなされた。うがった見方では、「小田高と城内高が対等合併をしたために、小田原高校は合併で消滅したことになり 110 周年を祝う事が出来ないのだ。」という説があった。

このような議論がされる裏には、卒業生の側に小田高の伝統が失われることを危惧する心があったのだろうと推察する。そうであるならば、その伝統とは一体何なのか。

広辞苑によれば「伝統とは系統をうけ伝えること。またはうけ伝えた系統。廣くは伝承に同じ。特にそのうちにある精神的核または脈絡。」と定義している。これでは短すぎて分かり難いので Wikipedia を引いてみた。それによれば「伝統（でんとう、英：tradition）とは人間の行動、発言、思考及び慣習に見出される歴史的存在感を総称していう。または、人間の生存・生活の中に長い歴史を通して表される種々の慣習や形式、価値観を総体的に指し、狭義には、個々の集団が個別に有する慣習、形式、価値観を指す。伝統は、また、それまでの歴史の中で形成されて来た種々の形態の中から、特に重んじて次世代に継承すべきものに対する精神的な立場を指す。」としていてこの方がわかりやすい。

この定義に従えば、110 周年行事そのものが伝統の一部なのかもしれない。ではそれ以外の小田高が持つとされる「慣習、形式、価値観」とはどんなものなのだろうか。私達はその伝統により影響を受けたのだろうか、伝統があるのは良いことなのだろうか、良いことならその伝統を守るにはどうすればよいのか？

高等学校の 3 年間に在校生が伝統を受け継ぐためには、相当意識的に伝承という行為をしないと伝統の継承ができないように思われるが、はたしてそれは行われてきたのだろうか。いままで何となく「伝統ある小田原高校」という認識でいたのだが、同窓会総会での議論をきっかけに様々な疑問が湧いてきた。諸兄弟のご意見をうかがいたいと思う。（小田高の公式ホームページでは 110 年の伝統をもつと明記されている。参照：<http://www.odawara-h.pen-kanagawa.ed.jp/zen/annai/message-m.html>）

常任幹事記

目次

- 伝統について
編者
- 腎臓病の食事療法に取り組む
オトコーポレーション
5 組 杉山 剛
- 湯河原でボランティア観光ガイド
をしています
6 組 林 明德
- 日本経済新聞「円ダービー」
に参戦して
6 組 月村 博
- 私のウンチク
～アメリカテレビドラマと映画のこぼれ話～
7 組 山本哲照
- 短信欄
4 組 川崎虔右
6 組 石塚敬一
5 組 杉山 剛
5 組 中津川泰司
4 組 江口恵一郎



腎臓病の食事療法に取り組む オトコーポレーション

5組 杉山 剛 oto-corp@db3.so-net.ne.jp

1. 新しい国民病「慢性腎臓病」

腎疾患患者数は年々増加の傾向にあり、腎不全は死亡原因の第8位となりました。特に慢性腎不全は「国民病」と言われるようになり理解・関心も広まりつつあります。しかし実際には患者数は増え続け、平成21年の日本のCKD患者数は約1300万人とされました。これは成人の約8人に1人にあたります。人工透析の患者数は毎年1万人増え、数年以内に30万人を突破し、400人に1人が人工透析を受けると予想されています。

2. 真の医療は病気予防と健康維持

慢性腎臓病（CKD）の主たる原因は肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常といった生活習慣病です。生活習慣病は生活スタイルを見直すことで予防が可能と言われています。

腎臓病は自覚症状がなくサイレントキラーとも呼ばれますが、適切な対応により予防・治療や進行の遅延が可能と言われています。食事指導が大切で食生活の見直し、改善を行なうことで透析導入を遅らせることが出来ます。これが、食事療法は奇跡の治療と言われる所以です。

3. 習うは一生

私は小田原高校卒業後、山梨大学工学部発酵生産科（現：生物科学科）を経てわかもと製薬（株）へ入社。相模大井工場長、開発部長、学術部長から医薬品原料の国内、海外への販売部長を経て独立し、オトコーポレーションを立ち上げました。その間活性型ビタミンB2、脳循環改善剤、コエンザイムQ10、血栓溶解剤ウロキナーゼ、膵炎治療剤 Tripsin inhibitor 等の開発製造に携わった。また、腎不全保存期の食事療法のための食品開発、納豆菌、麹菌、乳酸菌を利用した発酵生産物の開発、製造に携わってきました。

研究開発に携わる内に、再び勉学心が燃え上がり、2008年に杏林大学にて医学博士を取得することができました。

4. NPO設立

腎臓病のための低たんぱく商品の開発・販売を行なう内に患者の生活の質（QOL）を向上させるには患者の意識及び患者を取り巻く環境の改善が不可欠であ

ると痛感するようになりました。その為、市民講座や調理教室を行い食事療法の大切さの啓蒙活動に力を入れるようになりました。同時に、指導的立場にある管理栄養士の技術及び知識向上にも力を入れています。



セミナーの 状況

同時に営利を離れ、患者のQOL向上と保健・医療福祉の増進に貢献する為に2003年に特定非営利活動法人「食事療法サポートセンター」を設立し、理事長を務めています。

5. 小田原から全国へ発信

東京からふるさと小田原に本社を移転し、毎月小田原タウンセンターの調理室をお借りして調理教室を行なっています。講師は食事療法を実践している患者さんです。参加者は患者と家族、そして栄養士です。参加して学んだ栄養士が、今年は各地で自分達の調理教室を開催しています。こうして一滴の水が水面に波紋を広げていくように、各地へと活動の輪が広がっています。小田原が発信基地となり全国へと活動を行なっています。



小田原 調理教室

6. 日本から海外へ

近年ではアメリカやタイ、中国等海外でも腎不全に対する食事療法が注目を集めています。毎年3月第2木曜日は「世界腎臓デー」です。2010年は3つの目標を掲げています。

『糖尿病と高血圧の治療をしっかりと行なう』

『腎臓病の進行は抑えられる』

『腎臓病は進行に応じて適切な治療ができる』

私共も多くの方のご協力、ご尽力を仰ぎながら腎臓病に悩む全ての方のお役に立てるよう更に努力し邁進して参ります。

湯河原でボランティア観光ガイド をしています

6組 林明德 akinorihayashi2005@yahoo.co.jp



オフィス
にて



OTO CORPORATION

- 1995年 有限会社オトコーポレーション設立
- 1996年 Glucosamine の国内販売及び OTC（一般用医薬品）化
腎不全保存期の食事療法のための低たんぱく食品の開発
- 1997年 納豆菌培養エキス末 Nattoesse の開発
- 2003年 Nattoesse の基礎データ、臨床データを北里大学及び北里研究所と
Immunology&Microbiology に発表。
Natural Expo in Anaheim USA に出展、
NPO 法人食事療法サポートセンターを設立、
理事長に就任。
販売部門として有限会社 NeuveSante を設立、
麹菌培養エキス末 Kojiesse を開発
- 2005年～ Natural Supply West in Lasvegas
in USA に出展
- 2006年～ 北里大学理学部生体防御学講座研究員
- 2007年～ Supply Expo in 東京国際フォーラムに出展
- 2008年～ 乳酸菌醗酵エキス開発、Nattoesse F803
開発。Supply Side West 2008 に出展
- 2009年～ 健康食品・素材・OEM 展 2009、
FIF2009 FOOD IN FUTURE (in Thailand) に
出展
- 2010年～ 健康原料・素材・OEM 展 2010 in 東京
国際フォーラムに出展

■本 社

〒250-0874 神奈川県小田原市鴨宮 223-16

TEL: 0465-46-1210 FAX: 0465-46-1205

□食事療法に関するお問い合わせは

info@jinzosensei.com

私は湯河原町吉浜で生まれ、引退後地元に着したのですが、昨年町の観光ボランティアに登録し、先輩からのガイドの研修を受け、昨年の夏過ぎからテキスト片手に先輩ガイドの見よう見まねで観光ガイドを始めました。友人からは“金のかからない暇つぶし法”と揶揄されていますが、多少は人から感謝され、町に来る観光客が少しでも増えてくれれば良いと思っています。引退後は社会との繋がりが次第に少なくなりがちなので、足腰が動き余りボケも進んでいない間はやりたいと思っています。土日祭日を中心とし、予約があればウィークデイも活動しています。

1、小田原・湯河原間の交通機関の変遷

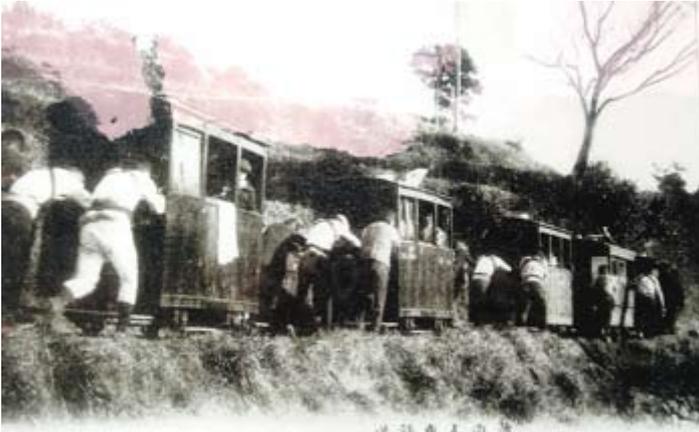
JR 東海道線で早川駅を過ぎると突然トンネルが多くなります。早川・湯河原間のトンネルの数は 10 もあります。江戸時代は小田原から箱根・三島と行く東海道表街道の脇道として、箱根山の南麓の相模湾沿いに行く根府川通（通称、熱海道）という街道があり、根府川にも関所がありました。京浜地区から熱海、湯河原への温泉客の便宜の為、明治 29 年にこのルートに人車鉄道が開通しました。明治 22 年には鉄道は神戸まで延伸されましたが、小田原、湯河原、熱海は外れていました。

人車鉄道は人が客車を押すという珍しい鉄道です。海岸沿いに断崖が迫るこの地域では勾配もカーブも厳しく、急な上り坂では乗客も降りて一緒に押さなければならなかったそうです。この線に乗ったドイツ人がその体験記の中で日本の“リビエラ”と海岸の景色を称賛しているそうです。国木田独歩もこの人車鉄道に乗って湯河原温泉に来ました。湯河原の万葉公園の中に日本最大級の足湯がありますが、この作家の名にちなみ“独歩の湯”と称しています。小田原～熱海間 (25 km) を 4 時間で結びましたが、車夫の人件費が高かったので 10 年後には、軽便鉄道に転換しました。明治 30～35 年、読売新聞に掲載された尾崎紅葉の“金色夜叉”では熱海が舞台になった事で、

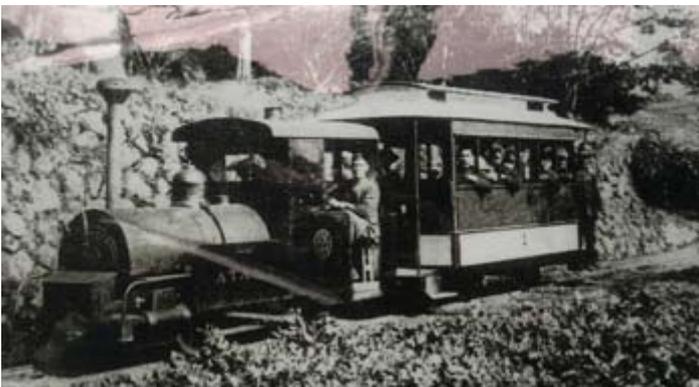
この乗客が増加したこともあったかも知れません。

軽便鉄道は小さな蒸気機関車に牽引され、所要時間は2時間27分と大幅に短縮されましたが、今の東海道線普通では所要時間は23分です。芥川龍之介の小説“トロッコ”は、この路線転換の為の道路改修工事が行われていた頃の湯河原が舞台となっています。関東大震災で路線は大きな被害を受けて廃業となり、その後は多くのトンネルで結ばれた今と同じ路線の国鉄熱海線となりました。

その後、待望の丹那トンネルが難工事の末貫通し、昭和9年12月には東海道本線が国府津・山北・御殿場・沼津のルートから小田原・湯河原・熱海まわりになりました。これにより登坂勾配による速度低下と補助機関車増解結の為の停車がなくなり、輸送効率が大きく向上したそうです。



豆相人車鉄道写真



熱海の軽便鉄道写真

2、湯河原は万葉集にも歌われている温泉地

湯河原は万葉集にも歌われている温泉地、江戸時代の温泉番付では小結です。

温泉の湧き出ている状況に併せて男の恋心を歌っている万葉集の歌碑が、歌の歌われた場所である万葉公園の入り口に立っています。その頃は河原に湧き出る湯を石で囲っただけの温泉だったようです。

江戸後期の日本全国の温泉番付が残っており、湯河原温泉は東の小結に位置しています。ちなみに、東方（東日本の意味）の大関（当時の最高位）は草津、関脇は那須、小結の湯河原の後に、箱根芦の湯が前頭筆頭、箱根湯本が前頭8枚目でした。

傷に良く効くところから日清戦争後、陸軍の療養所に指定され、お客も増えてきました。国木田独歩を先駆けとし、夏目漱石、島崎藤村、芥川龍之介、与謝野晶子、谷崎潤一郎、山本有三、横山大観、竹内栖鳳等文人墨客に愛された温泉です。

3、源頼朝の史跡が多くあります

今から830年前の1180年、伊豆に流されていた源頼朝は源氏再興の旗揚げをしますが、石橋山（小田原市石橋）の合戦に破れ、湯河原の山奥を平家方の追っ手を逃れて彷徨します。5日後に真鶴海岸から安房に海上を逃げるのですが、付近には頼朝の史跡が数多くあります。例えば、源頼朝主従が隠れた“しとどの窟”が箱根に向かう途中にあります。

JR湯河原駅前の銅像は郷土の英雄“土肥次郎実平”（上郡中井町の中村庄司宗平の次男）夫妻で、源氏再興に大きな役割を果たしました。安芸三原に移り小早川氏の開祖となりますが、早川庄土肥郷の実平の子であるところからその子遠平は小早川を名乗ります。その縁で湯河原町は広島県三原市と姉妹都市となっています。

4、2・26事件の史料館“光風荘”

昭和11年2月26日、陸軍青年将校によるクーデターがありましたが、地方で唯一その舞台になった場所が光風荘です。内大臣を退官後、静養中に襲撃された牧野伯爵は、護衛の警官と町の消防団員等の決死の活躍で九死に一生を得ました。私の主要なガイド場所でもあります。

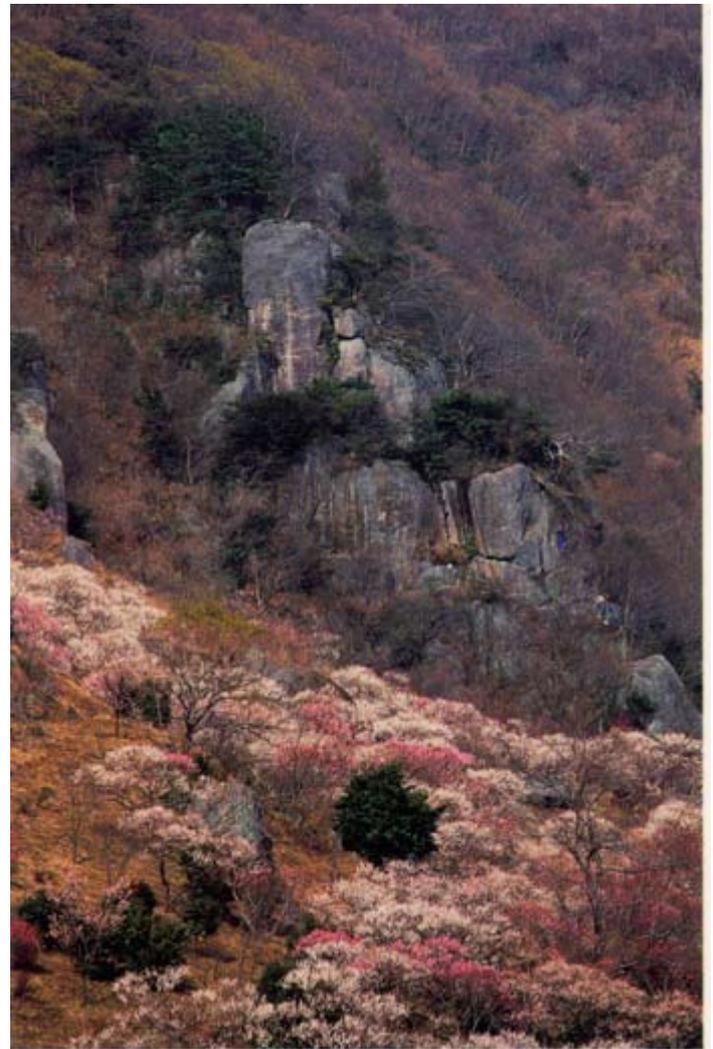
5、幕山梅林

湯河原の町からは富士山が見えません。しかし、箱根町との境にある大観山（海拔 1,015 m）からは見えます。また上空からも見えます。理由は箱根の 1,000m 級の山並みが近くに迫っていて、視界を遮っているからなのです。



湯河原全景

幕山は箱根古期外輪山で、金時山・幕山構造線上の一番東南側に位置しています。18～20 万年前に生成し、爆発しきれないで止まり、それが侵食を受けドーム状の山になりました。この山麓に 4,000 本の白梅・紅梅が植えられ、2 月中旬～3 月上旬“梅の宴”が開かれます。野趣に富む梅林という評価から近年人気急上昇しています。航空写真の右側の一段奥の小山が幕山（海拔 626 m）で、中央手前の山は土肥城址の城山（海拔 563 m）です。梅祭りのシーズン中は私もガイドに出ています。



幕山

日本経済新聞「円ダービー」に参戦して

6 組 月村 博

tsukimurahiro@yahoo.co.jp

かつて、米国のローレンス・サマーズが財務副長官を務めていた頃、講演等の後によく「為替レートはどうなりますか」という質問を受けることがあったそうです。その際のサマーズの答えはふるって、次のようなジョークで、煙に巻いたのです。～～～アインシュタインが亡くなって天国に行ったときの話しですが、神様は天国の入口でアインシュタインに一つの仕事を命じました。それは天国に入ってくる者の職業を決めて欲しいというものでした。

アインシュタインは、天国の入口にすわって、後から入ってくる人間の面接を始めました。最初にやってきたのは、見るからに頭のよさそうな人物でした。そこでアインシュタインは、こう質問しました。「あなたの I Q（知能指数）はいくらですか」

男は答えました。
「200です」

すると、アインシュタインは言いました。
「それなら相対性理論でも研究しなさい」次に登場したのは、IQが150の男でした。アインシュタインが、その男のために決めてあげたのは、「世界経済の予測」の仕事でした。

最後に現われたのは、IQが60の男でした。それを聞いたアインシュタインは、厳粛な顔で、こう言いました。

「では、為替相場の予測でもしていなさい」～～～
サマーズは、将来の為替レートは誰も正確に予測できないことを、このようなジョークに託して伝えようとしたのです。米国の為替関係者等の間では、かなり有名なジョークとして語られているようです。

たしかに、これだけ多数の人が参加している上に、世界のあらゆる情報が反映している為替レートは、サマーズの言うように誰にも予測することはできません。どこかの国でクーデタが勃発したり、大災害が起きるだけですぐ変わるのです。為替レートを予測できると思うほうが間違っている、としか言いようがありません。

為替相場の先行きは不確実で、未来を正確に読むことは誰にもできないとしても、為替相場を予測するための尺度はないのかと言えば、為替相場の基礎となるファンダメンタルズ（経済の基礎的諸条件）というものが厳然として存在するのもまた、事実なのです。

中でも、①GDP成長率、②インフレ率と金利、③経常収支、④財政収支という4つの経済指標は最低限チェックしておく必要があります。この4つのマクロ経済指標は非常に客観的なものですが、これらに加えて「これからは日本より中国だ」といった主観的なエレメント、あるいはある種の情報戦争的なものも織り込まれて、実際の為替相場が決まっていくのが現実です。

{文春文庫『為替がわかれば世界がわかる』（榎原英資)}

こうしてみると、為替相場を予測するには、如何に多くの情報を持っているか、そして情報の取舍選択にポイントを置くことが大切であるということです。その結果を基にして為替市場にかかわるプロでさえも外れてしまう為替相場を、日本経済新聞の読者が“予想を競う”というのが日経の「円ダービー」です。この「円ダービー」は、1985年の「プラザ合意」を受けて円がドルに対して急上昇、転機を迎えた翌年10月に開始され、今年で24年になります。

具体的には、翌月の最終営業日の東京外為市場の円相場（午後5時の対ドル終値、値幅の左側の数字）の予想をするものです。応募の方法は、はがきに次の項目を書いて月末までに投函する。①翌月末の円相場（1ドル=〇〇円〇〇銭）②予想の根拠③氏名（ふりがな）④電話番号⑤住所⑥年齢（生年月日）⑦職業

毎回、上位10位以内の者を入賞者として、日経の「資産運用面」に名前、住所の都道府県名が表の形で掲載され、記念品が贈呈されます。このランクの決め方は、予想と実際の値の差（かい離幅）が小さいほど上位になります。さらに、毎年12月には、1～11月の上位入賞者を対象とする円ダービー・チャンピオン決定戦が開催されます。応募者について特に年齢制限等はなく、中学生から高齢者まで幅広い層が「円ダービー」を楽しんでいます。一般読者とは別に、中学校から大学までの学生を対象に、同じ学校に所属する5人以上でチームを組み、必ず各組に指導教諭が付いての学生チームが競う「全国学生対抗円ダービー」が毎年開催されています。為替を通じて、世界で起きている様々な出来事に学生が関心を抱くきっかけにもなり、教育現場で身近な経済を学べる格好な教材となっているようです。

因みに、2010年の「第10回学生対抗戦」には、全国81校527チームが参加し、早稲田大学のチームが優勝しました。

さて、私がこの『円ダービー』に興味を持ち始めたのは、“介護保険証”の交付を受けた頃からです。挨拶した相手の名前が思い出せなかったり、庭に咲いている花の名がすぐに頭に浮ばなくなってきた、いよいよポケの始まりかと認識し、対策をいろいろと調べたわけです。偶々、新聞の健康欄に“ポケ予防に効果が期待できる生活習慣や趣味”として、7項目の一つに頭を使うゲームは脳の刺激になり、脳を活性化するという専門家の意見が載っておりました。

為替取引は一種の情報ゲームとも言われ、日々刻々と変わる為替市場の動きを“読む”ことは、きわめてスリリングな知的ゲームでもありますので、ゲームの観客という立場で参加したわけです。

相場を予想すると言っても、いままで為替に関心持ったことと言えば、海外旅行に出かけた時ぐらいですから、ひとまず、円・ドル相場の歴史をたどることにしました。円という通貨は、1871年（明治4年）の「新貨条例」によって誕生し、当時の米ドルとの交換比率はほぼ1対1、つまり1ドル=1円でした。ところが、1897年（明治30年）の「貨幣法」では正式に金本位制が採用され、1円=0.750グラムとし、1ドル=2円になりました。その後、

我々が生まれた頃（1941年）には、1ドル＝4円25銭にまで下落していました。そして、敗戦直後の混乱とインフレにより1945年12月には1ドル＝50円となり、その後も何回か下方修正され、ついに1949年に1ドル＝360円の固定相場制が採用され、22年間続いたわけです。

1971年のニクソン・ショックで変動相場制に移行してからの円・ドル相場は、しばしば乱高下を繰り返し、85年9月の「プラザ合意」の時は、1ドル＝250円台まで一気に円高になりました。為替レートはそれ以降、円高基調が定着し、95年4月19日には戦後最高値の1ドル＝79円75銭を記録しましたが、その後は2005年12月に至るまで、概ね100円～140円の間で推移していました。

私が初めて参戦した2006年は、米連邦準備理事会（FRB）のバーナンキ新議長が2月の議会で追加利上げに言及したため、5月17日に109円16銭をつけた後、円安ドル高傾向で推移し、後半は115円～120円の範囲での動きでしたが、予想値は、入賞可能ない離幅まで縮めることができませんでした。

2年目の2007年は、前半は低金利の円を売って高金利通貨などに投資する“円キャリー取引”が膨らみ、円は6月に124円14銭と約4年半ぶりの安値をつけました。一方、米国の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題が顕在化してきた夏場以降、海外の投資家がリスクを減らすために円を買い戻し、11月27日に107円22銭まで円高が進みました。このような動きの中で、「円ダービー」の10月末予想値を114円75銭としたのに対し、終値は114円76銭となり、1銭のかい離幅で待望の第3位入賞を果たすことができました。

続いて、年末の「チャンピオン戦」では、更なる円高と読んで108円48銭と予想したところ、米シティグループが増資を発表したり、米政府のサブプライム問題対策発表や日銀短観の大企業景況感の悪化などがあり、円安にふれ終値は113円10銭となり、残念ながら入賞はできませんでした。

3年目の2008年は、前年夏のサブプライム問題の深刻化から始まった米国の金融不安は、欧州諸国を巻き込んだ世界規模の金融危機に拡大し、特に9月15日のリーマン・ブラザーズの破綻が引き金となり、世界の金融市場が凍りつき、世界経済は急激な景気後退に見舞われてしまいました。このため、米国のFRBをはじめ各国の政府および中央銀行により、金融危機への対応として、金融市場への大量資金供給や金利の引き下げ等金融安定化のための諸施策が採られました。こうした世界同時不況のなかで、「日本経済は米国、ユーロ圏の経済よりもキ

ズが浅い」と多くの投資家が判断し、「ドルやユーロを売って円を買う」行動に走ったため円高が進みました。特に10月以降の急激な円高要因は、日本の超低金利政策によって膨らんだ「円キャリートレード」の解消が始まり、借りた円を返済するために急激な円の買い戻しをしたことです。

『1月の為替相場の動きをみれば、その年の相場動向が読み取れる』この説はドル／円相場の「1月効果」という経験則です。ドル／円相場は、「1月の相場の方向性」と「年間の相場の方向性」が一致することが非常に多いということです。日本が変動相場制に移行した後の1974～2008年まで35年間のデータでみると、「1月効果」があてはまった年は28、あてはまらなかった年は7で、的中率はちょうど80パーセントです。

実際の円相場の動きを見てみますと、1月第1営業日は109円26銭、1月最終営業日の終値は106円61銭でした。ここから1月は円高・ドル安の方向に動いたことがわかります。次に、12月の最終営業日の終値は90円26銭で、1月のスタートだった109円26銭と比べると途中の紆余曲折はともかく、2008年全体の相場もまた、円高・ドル安の方向に動いていたことがわかります。この年の私の成績は、“途中の紆余曲折”に翻弄されてしまい、かい離幅が1円を切ったのは1回だけでした。

4年目の2009年は、年初は前年秋のリーマン・ショックの影響が尾を引くなか、90円台で取引が始まりました。高金利通貨を売って安全通貨とされる円を買う動きが優勢でしたが、3月頃からは、景気回復期待が徐々に広がり、資源国・新興国通貨に資金が流れ込み、円相場は4月に101円台まで下落しました。夏ごろからは、FRBが超低金利政策を長期間続けることを繰り返し表明したため、円買い・ドル売りが広がり、さらに、9月に発足した鳩山政権の藤井財務相は、為替介入に否定的な姿勢をとり、円買いを後押しすることになり、11月には14年4ヶ月ぶりの高値となる84円82銭まで上昇しました。

ただ、年末には米国の雇用に改善の兆しも見え始めドルは反発し、12月30日には92円台まで円安が進みました。

この年の『1月効果』を見てみますと、1月第1営業日は92円01銭、最終営業日は89円49銭でしたので、1月は円高・ドル安に動いたこととなります。12月の最終営業日は92円12銭でしたので、スタート時と比べると2009年全体の相場としては、若干の円安・ドル高ということになり、

あてはまりませんでした。

私の予想値は、相場の傾向はある程度つかめていたものの、前年同様に、かい離幅が1円を切ったのは1回のみでした。

5年目の2010年は、4月頃まではギリシャの財政問題の深刻化によるユーロから円へのリスク回避や米国のFRB高官による低金利長期化発言等で円高・ドル安に進行したり、良好な米景気指標の発表やFRBの公定歩合引き上げ等により円安・ドル高に加速したりを繰り返しました。5月に独・米での金融取引規制強化の動きから、世界的な株安

に歯止めがかからないなか、20日には一時88円97銭まで円高・ドル安が進みました。米国も事実上穏やかなドル安を志向していましたが円高・ドル安は徐々に進行し、8月に入って米連邦公開市場委員会(FOMC)が景気判断の下方修正をしたことや日銀の介入警戒感が背景にあるものの具体策が打ち出されなかったことから31日には84円22銭まで加速しました。その後も、84~83円台での円高展開が持続していましたが、9月15日政府・日銀は、6年半ぶりに円売り・ドル買いの単独介入に踏み切り、一時85円78銭まで下落したものの、

21日米FOMCが追加金融緩和を示唆したことで、83円31銭まで円高が進行しました。さらに、10月に入るとG20を控え「介入は困難」との思惑も円買いを促し、末には80円台まで円高・ドル安が進み、95年4月の79円75銭の史上最高値を更新するのも時間の問題かと思われました。このような動きの中で、私の「円ダービー」挑戦は、6月の第140ラウンドにおいて第2位に入賞することができました。

6月30日の終値88円65銭に対し、予想値は88円63銭としましたので、かい離幅は2銭という結果でした。

この結果、12月初めに開かれる「チャンピオン戦」への参加資格を得ましたので、これから12月末の相場を予想するところです。

予想の一つとして『1月効果説』を検討してみますと、1月第1営業日は93円03銭で最終営業日の終値は90円18銭でしたので、円高・ドル安に動いたこととなります。G20が閉幕した11月12日の終値は81円85銭ですから、このまま大きな動きがなければ、年間の相場の方向性としては、1月と一致しているといえます。

さらに、一方的な円高・ドル安進行も回避される見込みの根拠として、①日米ともに超低金利が続くなか、日米金利差縮小に起因す

17 資産運用

【第三種郵便物認可】

資産運用

円ダービー 第140ラウンド 入賞者
6月30日の円相場、終値は88円65銭、敬称略

順位	氏名	住所	予想値	差
1位	三浦 浩平	大阪	88円64銭	1銭
2位	月村 博	神奈川	88円63銭	2銭
3位	宇佐見友美	大阪	88円60銭	5銭
3位	内海 良和	東京	88円60銭	5銭
5	米川 富朗	神奈川	88円57銭	8銭
6	井上 唯人	鹿児島	88円56銭	9銭
7	佐藤 光一	京都	88円55銭	10銭
7	毛利 聖一	東京	88円75銭	10銭
9	大石 仁美	埼玉	88円76銭	11銭
10	串田 光男	大阪	88円77銭	12銭

読者が円相場の予想を競う「円ダービー」第140ラウンドの入賞者10人が決まった。

円ダービー

1位は会社員の三浦浩平さん(27)。6月30日時点の東京外国為替市場の円相場終値は1ドル88円65銭で、三浦さんの予想との差は1銭だった。849通の応募があり、予想平均は92円28銭。締め切りの5月末の終値(91円47銭)よりも円安にふれると予想した人が約7割に上ったが、結果的に一段の円高だった。三浦さんは勤務するメーカーで1年ほど前まで外国為替を扱う担当だった。経理担当に異動した後、相場を失わないようにと円ダービーを始めた。仕事での経験や知識に加え、今も付き合いがある金融機関の担当者との会話などから予想す

1位は三浦さん、1銭差

円ダービー初入賞でいきなりの1位。「クロス円取引(ドル以外の通貨に対する円の取引)は円高基調となり、ドルもつられる。ただ値動きが大きいと警戒感が広がる」とみて、円高の振れを88円台後半に抑えたのが奏功した。2位の月村博さん(69)は2度目の入賞。金融機関を退職後、「頭の体操に」と応募を続けている。新聞と雑誌から情報を収集し「ユーロ不安は当面続き、危機回避策として円買いが進む」とみた。3位には2人が入り、いずれも初入賞となった。建設会社勤務の内海良和さん(41)は「欧州の動揺はしばらく収まりそうにない。応募時点では朝鮮半島の緊張感も高まっており、結果として円の人気が高まる」と考えた。金融機関勤務の宇佐見友美

次回は8月31日の東京外為市場の円相場(午後5時の対ドル終値、値幅の左側の数字)の予想を募集します。7月31日消印有効。応募される方ははがき以下の項目を書いてください。1人1予想に限り、複数応募は失格になります。①8月末の円相場(1ドル○○円○○銭)②予想の根拠③氏名(ふりがな)④電話番号(8月31日午後6時ごろに入賞者に連絡します)⑤住所⑥年齢(生年月日)⑦職業
あて先 〒100-8669
1 日本郵便銀座支店 私書箱399号 日本経済新聞社 経済解説部 円ダービー係

¥ \$ €

る円高・ドル安圧力は限られていること②一段の円高に対しては、日銀による追加金融緩和や断続的な円売り介入が予想されることです。また、80円台前半を中心とした一進一退が長引く見込みの理由として、①米国財政赤字の未曾有の拡大など構造的なドル安要因に解消の目処が立たないこと②“5年間で輸出倍増”を掲げる米国当局も事実上穏やかなドル安を志向している等が挙げられます。

そして、閉幕したばかりのG20サミットポイントとして、「通貨の競争的な切り下げを回避」「先進国は為替レートの過度の変動や無秩序な動きを監視」等で合意したこともあり極端な為替政策は採りにくい環境になったようです。

“ボケ防止”のために始めた「円ダービー」ですから、あまり難しい情報に拘らずに“軽い頭の体操”として楽しむつもりです。

私のウンチク

～アメリカテレビドラマと映画のこぼれ話～

7組 山本 哲照 alleinganger@rouge.plala.or.jp

◆はじめに

こんにちは。7組の山本です。「11期通信第4号」に駄文を掲載させていただきました。あれでお役御免と思っておりましたが、今回またお鉢が回ってきました。今まで掲載された同期諸兄のご寄稿は皆現役時代に携わっておられた仕事に関係した事や、ずっと個人的に興味をもたれたものを更に深く追及され、それをご自分の言葉で表現されたもので、いずれもその見識に圧倒されるものばかりでした。私の現役時代と言えば一番長く在籍したのが日刊工業新聞社の出版局販売部でした。書籍・雑誌の販売を担当し取次（卸会社）や書店及び出版社とは大分繋がりができましたが所詮は狭い業界、皆さんにご披露できるようなお話はありません。趣味は映画・登山・読書（オヤオヤこれではまるでお見合いの会話か）などでこれまた面白くもおかしくもありません。さてどうしたものか？と考えている時にアメリカの映画俳優ピーター・グレイブスの訃報が飛び込んできました。ピーター・グレイブスといえばテレビドラマ「スパイ大作戦」の主演として日本では知られた俳優です。「スパイ大作戦」（原題 Mission: Impossible）はアメリカで1966年から1973年まで放送されたTVドラマで、日本では1967年からフジテレビで放映されました。「お早う。フェルプス君」と言う出だしは「君もしくは君の仲間が捕えられ或いは殺されても、当局は一切関知しないからそのつもり

で」というくんだりと共に当時は一世を風靡したものです。そんなことを考えているうちに「そうだ。こんなことならある程度は書けそうだ」と思ったことがあります。

◆カンヌとモナコで

私は親しい友人などからよく言われますが、妙なところで異常なほど記憶力がよいようです。例えば11期の同期生水口幸治・中澤秀夫・佐々木洋（敬称は省略します）それに私の4人で2007年8月下旬から9月上旬にかけてイギリス・フランス・スイスを旅行した時のことです。当時水口がパリに居住していて彼がパリにいる間にヨーロッパを案内してもらおうということになり、3人ではるばる押し掛けたわけです。イギリスはロンドンのみ、フランスはパリ、モンサンミッシェル、リヨン、コート・ダ・ジュール、スイスはジュネーブ、マッターホルンとユング・フラウを訪れました。コート・ダ・ジュールのカンヌでは映画祭で有名な会場を訪れました。地面には有名な俳優の手形が名前と共に刻まれています。その中に「Brigitte Fossey」という名の手形がありそれを見た水口が「これはブリジット・フォッセーと読むのか？」と聞いてきたので「そうだ。ブリジット・フォッセーはフランスの女優で『禁じられた遊び』（1952年、仏）の女の子の役で一躍有名になったんだ。子役から離れて10数年後の『バルスーズ』（1972年、仏）という映画で又少しだが話題になったよ」と答えると「よくそんなことがすらすらと出てくるな。」と感心されました。次に訪れたモナコではちょうど「グレース・ケリー展」が開催されていました。私としては見逃すわけにはいきません。早速入館しました。中にはケリーが出演した映画のポスターや映画の場面のスチール写真が大量に展示されていましたが、私はそれらの映画の題名・映っている俳優名など殆どは分かりました。一緒に見ている三君に聞かれば大概の事には返事ができましたので、ここでも大いに感心されました。覚えている事と言えば大抵は生活には何ら役に立たない、下らないことばかりですが頭の引き出しの中に収納されています。今回はこの記憶力にまつわるお話を私の大好きな映画の話題を中心に、脈絡もなく書き連ねてみようと思います。

◆スパイ大作戦とピーター・グレイブス、マーティン・ランドー

例えばピーター・グレイブスという名前ですら浮かんでくるのは、この「スパイ大作戦」というTVドラマの5人のメンバーのリーダー「ジム・フェルプ

ス」という役柄の他に映画では「第17捕虜収容所」(1953年、米)に出てくる捕虜の一人で仲間を裏切って敵に情報を漏らす役で出ていたこと。もっともこの映画を最初に見た頃はまだTVの「スパイ大作戦」は始まっていませんでしたから当然この密告者役の俳優の名前などは知りませんでした。テレビで有名になり役者の名前を覚えてから映画をもう一度見た時に「あっ、この役者はジム・フェルプスじゃないか!」と思い出しました。彼はその他に「ライジング・ハイ」(1980年、米)というパロディ映画では「ロジャー」という名前の飛行機のパイロット役でした。飛行中に体の具合が悪くなって操縦不能になってしまうのですが、他のクルーが地上との交信中に発する「ラジャー (roger・了解)」という言葉に自分が呼ばれたと勘違いして、そのたびに脂汗を流しながら「イエス」と返事をするのに大笑いしました。

ついでなので「スパイ大作戦」からお話を展開することにします。このドラマは実行不可能な指令を受けながらも、何とかこれをやり遂げようとする秘密諜報機関の活躍を描くものでメンバーは5人。ジム・フェルプスは二代目のリーダーでした。最初のリーダーは「ダン・ブリッグス」という名で、演じたのはスティーブン・ヒルという地味～な役者でした。初期のレギュラーの内「ローラン・ハンド」役のマーティン・ランドーについてお話ししますと、このドラマの中では変装の名人として登場し、フェルプスに次ぐサブ・リーダーの役を務めています。この役者についてもこの作品までは全く顔も名前も知りませんでした。やはり古い映画のリバイバル上映の時に発見して驚いたことがあります。その作品はアルフレッド・ヒッチコックの「北北西に進路を取れ」(1959年、米)です。彼はジェームズ・スチュアートが演じる主人公を執拗につけ狙う国際スパイ団の首領ジェームズ・メイスンの腹心の部下として登場します。この時もグレイブスの時と同じように「あっ、スパイ大作戦のローラン・ハンドだ」と分り、一人でニヤリとしました。因みに「スパイ大作戦」の初期の頃「シナモン」という役名の女性が紅一点として出ていました。これを演じたのはバーバラ・ベインという女優でマーティン・ランドーとは実生活では夫婦でした。

◆テレビが家庭団欒の中心だった

私たちの世代は少年時代から学校を巣立って社会に出てからも、家族の団欒の中心には一台のテレビがあり、そのテレビからは外国(主にアメリカ)のドラマが数多く放映されていました。私がよく見た作

品をランダムに並べてみると「ブロンコ」「ルート66」「ローハイド」「ライフルマン」「ベン・ケーシー」「コンバット」「プリズナー No. 6」「87分署」「スパイ大作戦」「泥棒貴族」「鬼警部アイアンサイド」「刑事コロombo」「刑事コジャック」などです。このほかに「弁護士ペリー・メイスン」「拳銃無宿」「アンタッチャブル」「ララミー牧場」「ボナンザ」「逃亡者」などが多くの視聴者の支持を得ていましたが、私は見ていませんでした。この頃はテレビは一家に一台の時代でこれらのドラマは夜のゴールデンタイムに放映されましたから、当然家族の間でチャンネル争いが発生します。当時の我が家は母・私・二人の妹と言う構成でした。見られなかったドラマは私がチャンネル争いで勝てなかった時間帯に放映されていたものでした。ついでに申しますと当時はプロ野球の中継も盛んで特に巨人戦はどの家庭でも男がチャンネルを独占していました。私は昔から野球中継には全く興味が無く、これでチャンネルを奪うと言うことは我が家ではありませんでした。妹たちは「家はお兄ちゃんが野球中継を見たがらないからありがたい」といつも言っていました。

先にあげた見られなかったドラマの内「逃亡者」は数年前にNHK・BSで放映された時に初回から全部を見ることができました。先日小田高11期生のクラス幹事の会合があり、出席された5組幹事の村田正孝さんが最近米国を旅してルート66を通ってきたという話をされましたのでナット・キングコールのソフトな歌声に乗ってスタートするこのアメリカのロードTVドラマを懐かしく思い出しました。この作品にバズ・マードック役で出演したジョージ・マハリスは人気沸騰し、映画に進出しましたがその作品「サタン・バグ」(1965年、米)はあまり高い評価は得られませんでした。監督は私の大好きなジョン・スタージェスだったのですが・・・

◆エド・マクベインの「87分署」シリーズ

この頃私が見ていたTVドラマの中で最も好きで印象に残っているものを上げるとすれば「87分署」と「コンバット」でしょうか。「87分署」はアメリカの作家エド・マクベインの有名な警察小説シリーズをドラマ化したものです。原作の小説は1956年の第1作「警官嫌い」から遺作(マクベインは2005年7月6日に他界)の「最後の旋律」まで日本で翻訳出版されたものだけでも56冊(長編だけでは52作)を数えます。殆どが早川書房の「ハヤカワ・ポケット・ミステリ」に収録されていますが、私はこれを全巻所有しています。TVドラマとしての「87分署」はアメリカでは1961年から62

年にかけて放映され、日本では1962年にフジテレビで放映されました。全30話で1シーズンのみで終わってしまいましたが、私は大好きな作品でした。実を申せばこのテレビドラマが大変面白かったので小説の方を読み始めたというわけです。読み始めたのは1964年で第18作の「斧」が出版された頃で、それを最初に読みました。すぐに病みつきになり第1作から買いそろえました。ちょっと脱線しますが私は日刊工業新聞社では主に出版部門に在籍しました。出版界におられた方はご存知と思いますが、出版社の人間は書籍・雑誌・レコードなどは取次（問屋）で定価の2割引きで買うことができました。私はこの特典を大いに活用しました。退職するまでに恐らく何十万円も得をしたことでしょう。退職してしばらくは書籍・雑誌・CDを定価で買うことに随分抵抗がありました。

◆テレビドラマの「87分署」シリーズ

本題に戻ります。小説の「87分署」では数人の刑事が登場しますが、ドラマの方はその中のスティーブ・キャレラ刑事（演じた俳優はロバート・ランシング）、マイヤー・マイヤー刑事（ノーマン・フェル）、バート・クリング刑事（ロン・ハーパー）、ロジャー・ハピランド刑事（グレゴリー・ウォルコット）の4人がレギュラーとなっていました。このうちロジャー・ハピランド刑事は原作ではいわゆる悪徳警官でしかも第5作の「被害者の顔」という作品の中であっけなく死んでしまうのですが、TVドラマでは最後までレギュラーとして出ていました。その点でちょっと違和感はありましたが、ドラマとしては十分楽しめました。原作と同じように刑事同士のユーモアあふれる会話もいかにもアメリカの社会を描写していたと思います。私が特に強烈に覚えている場面はキャレラ刑事と鑑識のサム・グロスマン警部との会話です。この二人は確固とした信頼関係で結ばれ、お互いに尊敬し合っています。何かの事件の捜査過程でキャレラがグロスマンに「これは何でしょうか？」と質問すると「何かに何かを結びつけた跡だろう」と答えます。なんのヒントにもならない答えに慥然とするキャレラ。そのまま会話を続けて最後にキャレラが「それでは探しに行きます。」と出かける素振りを見せるとグロスマンが「何を？」と聞き、それに対してキャレラが「何かに結び付けた何かです」と答え、今度はグロスマンが慥然とした顔をする場面。今でもあの時のシーンが目に浮かんできます。

◆ジョン・カサベテスとジーナ・ローランズ

キャレラにはテディという耳が不自由な妻がいま

す。ドラマでこの役を演じたのはジーナ・ローランズという女優です。当時23、4歳でなんてきれいな女優なんだろうとうっとり見とれていました。ずっと後になって知ったのですがこの女優は当時もう結婚していました。夫は俳優兼映画監督でニューヨーク・インディーズ映画の雄として一部に熱狂的なファンを持つジョン・カサベテスです。インディーズ(indies)とは independent film production の略でアメリカの8大メジャー以外の独立プロによる製作をさします。1980年以降低予算ではあるが芸術性が高く、ハリウッドが避けるようなテーマを扱った作品が数多く生まれました。カサベテスは1989年に60歳で世を去っていますが、彼が監督した「オープニング・ナイト」(1978年、米)で妻のジーナはベルリン映画祭で主演女優賞を獲得しています。彼が監督し、彼女が主演した映画の中で諸兄にお勧めしたいのは「グロリア」(1980年、米)です。「グロリア」はシャロン・ストーン主演で1998年にリメイクされていますから、お間違いないように。テレビの「87分署」シリーズは一度放映されたきり私の知る限りでは、その後新シリーズは勿論旧作が再放送されたことはないようです。放映終了後50年経過しましたが、今でも再放送が無理ならせめてDVDでも出して欲しいと思っています。原作の「87分署シリーズ」はその中の何点かは映画化されています。第10作目の「キングの身代金」は黒澤明監督が権利を買い取り「天国と地獄」(1963年)として映画化しました。

◆「コンバット」

エド・マクベインはペンネームをいくつも持ち、他に本名の「エヴァン・ハンター」名義でもいろいろ話題作を出しています。アルフレッド・ヒッチコックの「鳥」(1963年、米)はハンターの脚本です。またハンター名義で1954年に発表した小説「暴力教室」は翌年映画化され、この作品で不良学生役でデビューしたヴィク・モローは強烈な印象を残しました。そのモローが主演として登場したのがTVドラマ「コンバット」でした。「コンバット」はアメリカで1962年から67年まで放映され、日本では1962年11月からTBS系列で152話が放映されました。確か水曜日夜8時からの放送でした。先にお話しした通り女が多数派の我が家ではこの時間帯にチャンネル権を獲得するのは大変でしたが、私はこの「コンバット」だけは譲りませんでした。妹たちも「野球中継」に全く興味を示さない兄貴に対し、「まあこれだけは譲ってやるか」という心境だったのでしょう。ヴィク・モロー扮す

るサンダース軍曹とリック・ジェイソン扮するヘンリー少尉を軸にケーリ上等兵（ピエール・ジャルベール）、カービー二等兵（ジャック・ホーガン）、リトルジョン上等兵（ディック・ピーボディ）、衛生兵（コンラン・カーター）などの歩兵分隊のノルマンディー上陸後の行動を描いたもので、このドラマは当時の社会現象にもなっていました。「週刊現代」や「週刊ポスト」などが「サンダース軍曹のような部課長」などという特集記事を組んだことが記憶に残っています。

◆「ホワイト・ロック」か「ホワイト・ルーク」か？

「コンバット」の放送に関して印象に残っている事と言えば二つあります。一つはオープニングの英語のナレーションが「Starring: Rick Jason and Vic Morrow」ならヘンリー少尉が主役のエピソードで「Starring: Vic Morrow and Rick Jason」ならサンダース軍曹が主役のエピソードであるということ。このドラマのファンの大多数がそうであったように私もサンダース軍曹の方が好きだったのでオープニングのナレーションを聞いただけで主役が分かってしまい、喜んだりガッカリしたりしたものです。もう一つは戦闘中に前線で戦っている分隊が司令部と無線で連絡を取り合う場面が頻繁に出てきます。その時に敵に探知されないように分隊から呼びかける時は「チェックメイト・キング・ツー、こちらホワイト・ロック、どうぞ！」と叫びます。日本語吹き替えですが間違いなくこのように叫んでいました。ところがカラー化された第5シーズン（1966～1967年）では「ホワイト・ルーク」になっています。私はこのカラー版（全24話）のDVDを購入し、家でそのことに気付く「ホワイト・ロック」の間違ひではないかと思いました。しかし、「チェックメイト」も「キング」も「ルーク」もチェスの用語でどうやらこれが正しいようです。1962年に日本での放映開始の時翻訳を担当した者の単純なミスのようなのです。

◆ヴィク・モローとエリック・フレミングの事故死

初期の頃のこのシリーズはアメリカの有名な映画監督が監督をしていました。「ロバート・アルトマン」「バート・ケネディ」「リチャード・ドナー」「テッド・ポスト」などそうそうたる監督が名を連ねています（これも実はずっと後になって知ったことです）。ヴィク・モロー自身も何作か「コンバット」の監督をしています。ヴィク・モローは映画「トワイライトゾーン超次元の体験」（1983年、米）に俳優として出演し、1982年撮影中に墜落してきたヘリコプター

のローターに巻き込まれるという悲惨な事故で死亡しています。映画撮影中の事故と言えば「ローハイド」で頼れるリーダー、ギル・フェイバーを演じた俳優エリック・フレミングは1966年南米ペルーのワヤガ河で映画「ハイジャングル」の撮影中に急流に吞まれ溺死しています。ついでに言う「コンバット」のヘンリー少尉役リック・ジェイソンは2000年10月自宅でピストル自殺をしています。ヴィク・モローは女優バーバラ・ターナーと結婚（後に離婚）し二人の娘をもうけました。そのうち次女は女優のジェニファー・ジェイソン・リーです。この女優は私の大好きな女優の一人です。「ブルックリン最終出口」「ルームメイト」「ミセス・パーカー ジャズエイジの華」「未来は今」「ジョージア」「黙秘」などなどシリアスな演技からコメディエンヌとしてもどれも素晴らしくぜひ諸兄にも注目してほしい女優です。

◆その他のTVドラマと俳優たち

ここまで「87分署」と「コンバット」に関連することを脈絡もなく綴ってきました。何といたってこの二つのアメリカ製TVドラマにもっとも思い入れが残っているのですが、これ以外のTVドラマについても思い浮かぶことが多々ありますので、以下それらについて述べていきます。まず、出演した俳優に関するエピソードから・・・

※クリント・イーストウッド（ローハイド、1959年）

諸兄がよく知っておられる俳優から始めるとすれば「ローハイド」に牧童ロディ役で出ていたクリント・イーストウッドでしょう。彼はこのドラマの後イタリア製の西部劇いわゆる「マカロニ・ウェスタン」の記念碑的作品「荒野の用心棒」（1964年、伊・西独・スペイン）で一躍人気俳優の仲間入りを果たし、その後は監督としても数々の秀作を発表しました。現在80歳ですがまだまだ俳優・監督として意欲満々だと言うことです。「ローハイド」は♪ローレン、ローレン、ローレン♪というフランキー・レーンのパワフルな歌声で始まる西部劇で当時のお茶の間の人気を独占していました。このドラマで牧童頭のピートを演じていたシェブ・ウーリーは映画「真昼の決闘」（1952年、米）でゲイリー・クーパー演じる保安官を襲う4人の悪役の一人として登場します。ついでに言うと同じく悪役の一人だったリー・バン・クリーフはイーストウッドのマカロニウェスタン第2作「夕陽のガンマン」ではイーストウッドと張り合うガンマンとして登場し、以後は主役級の活躍をしました。もう一つついでに言う、「真昼の決闘」は

♪ Do Not Forsake Me Oh My Darling ♪という主題歌「High Noon」も大ヒットしました。この歌は初めにフランキー・レーンの所にきましたが彼が断ったためテックス・リッターが歌うことになりました。それが大ヒットし後でフランキー・レーンが大いに口惜しがったと言うことです。そう言えばゲイリー・クーパーにも同じようなエピソードが伝わっています。ヒッチコックの「海外特派員」（1940年、米）の主演は最初はクーパーの所に話が来たそうです。ところが彼が断ったためにジョエル・マクリーが出ることになり、映画はヒットしヒッチ作品の中でも高い評価を得ました。クーパーは「しまった！」とほぞをかんだと言うことです。

※チャック・コナズ（ライフルマン、1960年）
チャック・コナズは「ライフルマン」の主演ルーカス・マケインを演じた俳優です。ドラマの冒頭で改造したライフル銃を2秒間に13発連射しながら登場してきて、一人息子の頼もしい父親役を演じています。この俳優で印象に残っているのは映画「大いなる西部」（1958年、米）です。グレゴリー・ペックが演じる主人公の恋人に横恋慕し、ペックと旧式の拳銃で1対1の決闘をすることになるのですが、卑怯な振る舞いをして結局自分の父親（バル・アイブズ、この作品でアカデミー助演男優賞）に撃ち殺されると言う役でした。コナズは役者になる前はMLBのブルックリン・ドジャーズで活躍したメジャー・リーガーでした。

※デビッド・ニーブン（泥棒貴族、1965年）
1965年「泥棒貴族」という粋なドラマがフジテレビから放映されました。これもアメリカ製でシャルル・ボワイエ、デビッド・ニーブン、ギグ・ヤング、グラディス・クーパーなどの著名な映画俳優が出演していました。デビッド・ニーブンは映画好きな方ならよくご存じのサーの称号を持つイギリスの名優です。「嵐が丘」「80日間世界一周」「旅路」「ナバロンの要塞」などに出ています。「ナバロンの要塞」（1961年、米）は第二次世界大戦中エーゲ海ナバロン島のドイツ軍の大砲を破壊する任務を帯びたイギリス軍の特殊チームの活躍を描いたものですが、ニーブンはこのチームの一員で爆薬の専門家ミラー伍長として登場します。作戦行動中敵に先回りされたり、正体がばれて捕えられたりしてどうやら味方の中にスパイがいるのではということになります。この時ミラー伍長が一人の女性が怪しいとしてとうとうと理由を述べ最後に「QED!」と叫びます。「QED」というのは「Quod Erat Demonstrandum」

というラテン語で「証明終了」という意味だそうです。数学などで回答が終わった時に使う言葉です。2009年にNHKで「Q. E. D. 証明終了」というテレビドラマが放映されました。私はその時に「QED」という言葉を知りました。ちょうどその頃時期を同じくして「ナバロンの要塞」を見ていてデビッド・ニーブン扮するミラー伍長が「QED!」と叫ぶのを見ました。「なるほど。こういう時に使うのか!」と大いに納得したものです。

※レイモンド・バー（鬼警部アイサンサイド、弁護士ペリー・メイスン）
「弁護士ペリー・メイスン」（1957年）と「鬼警部アイサンサイド」（1967年）の主演レイモンド・バーはヒッチコックの映画「裏窓」（1954年、米）で、足を骨折して退屈しのぎに窓からのぞき見をしていたカメラマン役のジェームズ・スチュアートに、殺人の現場を目撃された犯人役で登場します。

※テリー・サバラス（刑事コジャック、1973年）
「刑事コジャック」は当時人気絶頂だった「刑事コロンボ」に対抗して企画されたものです。主演に起用されたテリー・サバラスはギリシャ系の俳優でスキンヘッドで特異な容貌の個性派です。映画では悪役を演じることが多かったように思います。「刑事コジャック」はニューヨークが舞台で犯罪者たちと戦うコジャック刑事がなんともカッコよく「ニューヨーク怒りの用心棒、刑事コジャック!」というキャッチフレーズが見事に決まっていました。このドラマにはその後主演級で売り出した俳優たちが無名時代に多く出演している事が一部のマニアたちには広く知られています。名前を上げるとシルベスター・スタローン、リチャード・ギア、クリストファー・ウォーケン、ハーベイ・カイテル、ジェームズ・ウッズなどです。

◆終章

ここまで、主に1960年代に放映されたアメリカのテレビドラマからテーマを見つけて私のささやかなウンチクを垂れ流してきました。勿論これらのことは年号を含めてすべて私が暗記しているわけではありません。市販されている書籍などから引用したものもありますが、殆どは私が独自に作成しているデータベースを基にしています。私は1985、6年頃からパソコンに興味を持ち1987年にはNECのPC9801シリーズを購入し、映画のデータベースを作り始めました。当時のパソコンはまだMS-DOSの時代で、ワープロソフトは「一太郎」

表計算ソフトは「Lotus 1-2-3」が圧倒的なシェアを占めていました。データベースソフトはカード型が主流で私は「データボックス」というカード型データベースソフトを使っていました。一枚のカードに適当な罫線を引き、一つのボックスにそれぞれ項目名を付けます。映画の場合の項目名は「題名」「題名の読み（すべてひらがな）」「原題名（外国映画の場合）」「製作年」「製作国」「監督」「脚本」「撮影」「音楽」「出演者」「出演者原名（外国映画の場合）」「上映時間」などです。コツコツと入力作業を続けて件数は6000件を越えた頃パソコンの世界はMS-DOSからWindowsの時代になり、「データボックス」は生き残れませんでした。但し、データそのものはテキストファイルやカンマファイルの形に変換しておきましたので、Microsoft Officeのデータベースソフト「Access」にデータを変換して現在でも使用しています。ただ「データボックス」の使いやすさに比べると格段に使いにくく、あまりデータは増えていません。それでもある俳優がどんな映画に出ているのかとか、この映画にはどんな俳優が出ているのかなどはすぐに検索できます。

あまりだらだらと述べていても興味のない方にはご退屈でしょう。紙数の関係で今回取り上げることができなかった私の「記憶の引き出し」の片隅に残っている事や「私のパソコン事始め」に関してはまだ色々とお話もありますから、今道さんや読者の方々のお許しを頂けるのなら、次回の「小田高11期通信」にでも掲載させていただきたいと思います。

(お断り)

右の図は山本さんの原稿には含まれていなかったのですが、編者がページ配置の都合上挿入しました。



Rick Jason

短信用欄

小田高 11 期通信第 5 号 ありがとうございます。
私も 10 年ほど前に、沢内村の広瀬君を訪ねて一晚
厄介になったことを懐かしく思い出しました。
奥様から喪中のはがきをもらい驚いた記憶がありま
す。 衷心よりご冥福をお祈りいたします。

4 組 川崎虔右

11 期通信お送り下さりありがとうございました。
まだ落ち着いて読んでいませんが月村君の話など興
味がそそられます。
細々でも続けてゆければまた盛り返してくることも
あるように思います。
いつも大変な仕事を請け負っていただいて恐縮です
が、原稿が集まるよう皆で努力したいです。

6 組 石塚敬一

近況

メールありがとうございます。あまりに昔のことで
切れ端程度しか思い出せませんが。

みなさん お元気そうでなによりです。私の方は
ぼつぼつやっておりますのでホームページを参考に
してください。

<http://jinzosensei.com>

あるいは

<http://oto-corp.com>

です。お金も〇〇もほどほどの年齢になると社会に
どのように関わり、少しでもお役にたてればとボラ
ンティアまがいの仕事ですが興味のある方は一緒に
やりませんか？

小田原事務所は 0 4 6 5 - 4 6 - 1 2 1 0、東京事務
所は 0 3 - 3 3 5 8 - 4 1 8 7 で
す。よろしく。

5 組 すぎやま

関東は雨模様のようなようですが、当地は秋晴れを思わ
せるような爽やかな快晴の一日でした。

小田高通信、お送りいただきありがとうございます
た。

2～3 日前、家内に「小田高通信が来ないな、おそ
らく原稿が集まらずに今道さんが苦勞されているん
だ」と言っていたところでした。

楽しく読ませていただきました。榮さんの多才さに
感心させられました。

今後ともよろしく願ひいたします。ありがとうござ
いしました。

5 組 中津川泰司

おはようございます。お世話になっております。

この度は小田高 11 期通信第 5 号をお送りいただき
有難うございます。

お忙しいところ、小田高 11 期通信にご尽力をいた
だきまして感謝しております。

私事で恐縮ですが今年は私用も多く、所属してい
る男声合唱団のコンサートが 9 月中頃に行われるの
で練習等に追われ、小田高 11 期同窓会にも出席でき
ない状況でした。

機会があれば、4 組の仲間とお会いしたいと思いま
す。

4 組 宇都宮 江口恵一郎

(編集後記)

11 期通信の編集は、私にとって楽しみな事です。
毎号驚くほど多様な皆様の生き方が伝わって来
ます。

現在 11 期通信をお届けできている方の数は

1 組 4 名 2 組 1 名

3 組 2 3 名 4 組 2 6 名

5 組 1 5 名 6 組 2 1 名

7 組 1 3 名 8 組 3 名

合計 106 名です。 まだメール未登録の方が
おられたらぜひ登録するようお勧め下さい。

次号は 2011 年 4 月 1 日発行の予定です。

今回から短信用欄を始めました。皆様是非気軽に
近況をお寄せ下さい。

寄稿は下記へ願ひいたします。

cimamich@juno.dti.ne.jp